

医局だより

講師 藤本久貴

川崎医大眼科学1教室は、近年安定的な入局希望を頂き、また他学との交流も可能となりつつございます。私個人の前眼部、特に角膜領域におきましては、短期的には角膜移植手術能力が倍増した印象がございます。偶然ですが、2020年6月1日にネピックが、2021年12月1日にオキュラルが保険収載され、それぞれ角膜・口腔粘膜場培養上皮移植が保険診療患者負担はK259-2 自家培養上皮移植術(52600点)で薬価約975万円が施行可能となりました。当院は施設認定を取得しており先月初回例の組織採取を完了し、今月施行実績確定いたしました。異なる組織に由来する商業再生医療製品の移植手術は世界初との事でございます。適応疾患である角膜上皮幹細胞疲弊症(LSCD)はまれと言うわけではない模様で、その全例が予定あるわけではございませんが(短期的に手術予定があるのは約50%)片手から両手の指くらいの症例患者様の定期通院がございます。

本年度の個人的目標は臨床体制の合理化・効率化・強靱化と年初から考えておりましたが、培養上皮移植手術を核として体制整備に心を砕いて参りたいと存じます。第一は患者様のためでございますが、パンデミックで手術等診療実績は低下した感は否めず、これを機に病院全体に対する貢献(願わくば反転)の一助となれば特にありがたいと考えております。角膜移植自体も私の着任2018年以来、合計100例を超え始めており、本年度より複数医師の執刀体制も確立したことから、ポジティブな方向での拡充を図っていきたいと考えております。

またパンデミック以降13本の論文が受理され(11本は筆頭著者・1本は責任著者・1本は救急医学との共著)、正直パンデミックによる受診減少に助けられて最大瞬間風速的な業績拡大につながった印象がございます。現在2本査読中、短期的に2本執筆予定で、何よりも大切なのは論文と考えておりますので安定的な生産が続くことを心より願っております。

今後も大きな課題が控えており、成功裏に遂行できるよう心を砕いてまいりたいと思っております。皆様方からのご支援に厚く感謝申し上げますと共に、さらなる精進を心新たにしております。

令和4年5月